

平成 21 年 4 月 6 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18530144

研究課題名（和文） セントラルバンキングとフリーバンキング論争の通貨改革と銀行制度改革に関する研究

研究課題名（英文） Inquiry into the Currency Reforms and the Banking System Reforms in the Controversy between Central Banking and Free Banking

研究代表者

大友 敏明 (OTOMO TOSHIAKI)

立教大学・経済学部・教授

研究者番号：90194224

研究分野：経済学説史

科研費の分科・細目：経済学・経済理論

キーワード：フリーバンキング，セントラルバンキング，中央銀行，通貨論争，貨幣信用学説

1. 研究計画の概要

本研究は、通貨学派、銀行学派とは異なる「第3の学派」であるフリーバンキング学派の理論史的・政策史のおよび思想史的な意義と限界をセントラルバンキング学派との論争過程の検討を通じて明らかにすることである。

2. 研究の進捗状況

研究の初年度と2年目は、イギリスで British Library とケンブリッジ大学図書館で資料収集を行ったが、3年目の本年度はハーバード大学附属図書館で資料収集を行った。収集する文献も著書のみならず、当時の雑誌や新聞に比重を移してきている。また本年度は、アメリカ、ミズーリ大学の L. H. White 教授とセントラルバンキングとフリーバンキング論争の諸問題について St. ミズーリ大学で意見交換をした。

研究成果としては、2本の論文を執筆した。ひとつは、「反通貨管理の思想— J. W. ギルバートと T. トウック」を『立教経済学研究』62:4, 2009に発表した。この論文は、1830年代の通貨管理の思想であるパーマー・ルールに対して批判的立場をとったフリーバンキング学派のギルバートとセントラルバンキング学派のトウックを対置させ、トウックのギルバート批判という形で当時の通貨論争の一端を浮き彫りにすることを意図した。

もうひとつは、「Monied Capital の蓄

積について— トーマス・トウックと匿名氏の『通貨理論論評』』経済学史学会編『経済学史研究』51巻1号、2009年に掲載が決定した。この論文は、monied capital という概念がセントラルバンキング学派のトウックと、セントラルバンキング学派でもフリーバンキング学派でもない匿名氏とのあいだでどのような共通性と相違点があるかを論じたものである。

研究の焦点は、貨幣市場での証券の利子率の変動が恐慌とどのように関連しているかにあるので、この点を今後の研究でもさらに深めるつもりである。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

その理由：本年度は、査読なし論文1編と査読付論文（大友敏明「Monied Capitalの蓄積について— トーマス・トウックと匿名氏の『通貨理論論評』」経済学史学会編『経済学史研究』51巻1号に掲載決定、来年度中に刊行予定）1編を執筆し、また査読なし論文1編は、同名のタイトルで、2009年4月にニューヨークのコロンビア大学で開催される Paper Money Conference で報告される予定である。また、この研究テーマの第1人者である L. H. White 教授が2009年5月に来日し、本務校でセミナーを行なう予定である。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、この研究テーマの研究者と幅広く意見交換をし、このテーマで執筆する予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① 太友敏明 「反通貨管理の思想—J. W. ギルバートと T. トウック」、『立教経済学研究』, 査読なし, 62 巻 4 号, 2009 年, 101—126 頁。